様式3

令和元年10月12日

令和元年度　結果の分析及び今後の改善策

（ 中間・最終 ）

天応　中学校区　校番　16　学校名　呉市立天応中学校

重点	d 中期（3年間）経営目標	e 短期（1年間）経営目標	l 結果の分析（結果と課題をこう考えます）	m 今後の改善策（案）（こう改善します（案））
★★★	学力・学習意欲を向上させる。（貫）	授業の工夫改善（考える授業の創造）により，生徒の意欲を高め，学力を向上させる。	【結果】 〇校内試験3割未満の生徒を前年度学年末試験と比較して，中間試験は34%減，期末試験は23%減，平均28%減となった。 〇家庭学習時間を毎日1.5時間以上行っている生徒は全学年平均で57.3%であった。 【考察】 〇学年が上がり成績に対する意識や意欲の向上が3割未満の生徒の減少につながったと考えられる。しかし中間試験と比較し期末試験の割合が増加しており，試験教科数が5教科から9教科に増えたことで学習が追いつかなくなっていると考えられる。 〇家庭学習を行っていない生徒の割合は3.7%であり，96%以上の生徒は毎日学習を行っている。また学習時間が1.5時間未満の生徒が全体の42.7%おり，学習の目標を意識させ時間の確保をさせる指導が必要と考える。	〇2週間前に試験範囲表の配付を行ってきたが，今後も継続して行うとともに，フォーサイトに日々の学習計画と教科，時間を記入させ，毎日確認する。 〇現在，3学年を中心に放課後いのこり学習を行っているが，この学習と家庭学習を連動させる取組を行う。 〇朝の会・帰りの会や学活等を使い，宿題や提出物を必ず提出するよう指導し，未提出者には通知し指導を行う。 〇家庭学習に取り組むよう1.5時間未満の生徒に対し個人的に面談を行い指導する。
★★	豊かな心と健やかな体を育成する。	全ての教育活動において生徒が主体的に活動する場を設け，自己肯定感を向上させる。 体力・運動能力の向上への意欲を引き出し，記録更新へ積極的に挑戦させる。	〇1学期末の生徒アンケートの結果，自分には良いところがあると肯定的に評価している生徒の割合は74%であった。 1学期に，大きな行事として小中一貫レクリエーションと体育祭があるが，行事の直後にアンケートを実施すると，「自分は少し成長したと思う。」という項目は89%を超える生徒が肯定的に受け止めている。 〇運動をすることに肯定的な生徒の割合が87%と高い数値ではあるが，体力に自信のある生徒の割合は8%と低い数値である。 新体力テスト，呉市の重点項目については，県平均を上回る生徒の割合が，学校で41．8%である。新体力テストの合計点については，2年生女子，3年生男子が県平均を上回っているが，1，3年生女子については大幅に県平均を下回っている。 【考察】 〇大きな行事の後にアンケートを採ると自分が頑張った充実感が実感でき，自分を肯定的に見ることができるようだが，何もない普段通りの時にアンケートを採ると自己肯定感が低くなる傾向がある。これは，常に決まった集団の中で生活し，成功体験が少ないためと思われる。 〇運動を意欲的にできてはいるが，体力に自信をもてていない生徒が多い。原因の一つとして，環境の変化により，運動できる場が確保できていないことが考えられる。 〇新体力テスト3項目については，41%と目標数値から大幅に低い値である。日常生活で全力で走る場面やボールを投げる場面が少ないことが考えられる。ただし合計点は県平均と比べ，標準偏差が49．56と低い数値ではないため，今後の取り組みによって大きく伸びると考えられる。	〇行事の振り返りアンケートを渡り廊下に掲示しているが，これをクラスにも配付をし，常に自分たちの頑張りを振り返ることができる状態におき，自信をもたせたい。 また，委員会や行事の中でいろいろな取り組みを行い，生徒が多くの仲間の中で表彰されることによって，自己肯定感を高められるように導きたい。 〇クラスマッチや小中合同ロードレースを通して，自らの体力を高め，前年の体力との比較によって，成長を認知させることや，また役割をもたせ，責任を果たすことによって自己肯定感を高めさせていきたい。 〇保健体育委員会が中心にクラスマッチの大会を企画し，学級が一体となって取り組む中で，体力の向上を図る。 〇体力つくり朝会を通して，呉チャレンジマッチに興味・関心を向けさせ，学級全体で運動習慣を身に付けさせる。 〇体育科でのウォーミングアップで，走る，投げる動作に繋がる運動を習慣化させ，主運動に活かしていきたい。 〇部活動では，走る場面やボールを投げる動作を取り入れた指導を行っていきたい。
★	教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	生徒と向き合う時間の確保 長時間勤務の削減	【結果】 〇生徒と向き合う時間についての教職員アンケートの結果は，時間が確保されていると回答した教員は，「とてもそうだ55%」「ややそうだ45%」で肯定的回答率は100%であった。 〇長時間勤務の削減について，時間外勤務が月80時間を超えた人数は，4月…1名，5月…0名，6月…0名，7月…1名，8月…0名であった。 【考察】 〇部活動を行わない曜日の設定を行った。その曜日に，会議や研修等を集中して行うことができた。 〇時間外勤務についての個人の意識が高まったため，結果に表れた。	〇生徒と向き合う時間については，確保されている。今後は，内容の質を高めて教育相談や学習指導を充実させる必要がある。 〇時間外勤務，月80時間以下については，概ね目標値に達している。国の目標値，月45時間以下に向けて更なる削減を図る必要がある。